

地元作家 川口氏に学ぶ

この瞬間を大切に...

八月五日、岩手県作家の川口雅幸氏に、インタビューを行った。時計店と作家の二足のわらじを履く川口氏から作品に込めた思いと私達への力強いメッセージを聞くことができた。

川口氏作品を通して伝えていたことは、それはデビュー作「虹色ほたる」の執筆から十年以上経った今でも変わらない。「生きることの尊さ」を、作品を通じて発信しつづけてきた。

この思いが色濃く表れているのが、昨年デビュー十周年を記念して発売された「幽霊屋敷のアイツ」だ。川口氏は同作のあとがきで東日本大震災について「さけては通れない」と

訪記 出迎えて下さる時から川口氏に驚きを覚えた。作家という、暗く静かなイメージだけがそれに反して、スタイ

そう決心したそうだが。自身辛い経験をしても尚、伝えつづけていく姿勢に強く、感動を受けた。

最後に、我々中学生に向けて、川口氏は「私達は物語のように再び、過去へ行き、やり直すことはできない。だからこそ、どんな時でも、この一瞬を大切に、夢を追い続けてほしい。」と語った。

○川口雅幸氏の作品
・虹色ほたる
・からくり夢時計
・C70がくれた夏
・幽霊屋敷のアイツ
以上4作



リッシュ且つ見さくな印象を受ける。片目にルーペをほめ

仕事をやる様は、作中の時計屋にワープしたかの様に思えた。又、

広報の意とは?

広報の意義。それは情報の共有。他の者の学びや考えを知ることによって新たな発見ができる。広報は我々の脳内を充実させる。重要な意義があるものなのだ。

なぜ本校には「広報文化」があるのだろうか。他に意見、情報を発信するだけではなく、他に共感したり、違う視点を取り入れたりと、つながりが大切だと思ふ。

文化部何してる?

まずは吹奏楽部。この部では、同じ旋律が繰り返される。作にフラッグアーム。各部充実の模様。学芸部の発表に力を入れている。乞うご期待!

クイズの答え

○クイズの答え
A 県民会館中ホール
今野先生曰く、当時は様々なハフニングが、そんな失敗の救済、経験として今の文化祭を支えていることを、忘れないで欲しい。

種

今年の本をテーマに発行してきた。これも元は意見箱からのリクエストがし初めはインタビューのアポイントで挫折続き。それでも書き続けられたのは一つの言葉に支えられたから。「努力した人には、新聞の神様が耳方してくれる」。毎日新聞社、西村氏の言葉は心強い。挑戦する心という種を持って

多くの学びを得よう。個々の心の中にある種を、生かすも殺すも貴方次第なのだから。

松尾 桃芳